

平成28年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	多久市立西溪中学校（小中一貫校東原庁舎西溪校）		
2 所在地	多久市多久町1784番地1		
3 校長名	吉崎 泰		
4 学級数 児童生徒数	4 学級 117 人	5 実施学年 児童生徒数	2 年 40 人

6 取組のねらい

- 本校では、各教科等でUD授業や体験を行い、相手を尊重する意識や思いやりの心（恕の心）を育むと共に、本校の研究主題「自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒の育成」に迫っている。
- ここでは、中学2年生の取組の中から、英語と職場体験の取組を紹介する。

7 取組の実際

(1) 英語科の授業

中学2年生の教科書に、「Universal design」の単元がある。本校では、いつもの英語の授業を行うことに加えて、さらにUDについて詳しく学習して、生徒のUDに対する意識を高めるために、具体的なUDの話をしたり、ALTの出身国である南アフリカのUD事情について、学習したりしていくことにした。

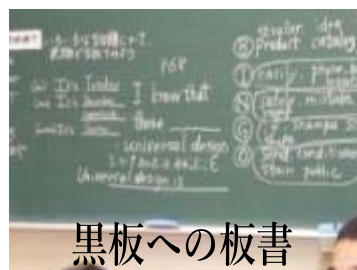
a 教科書を使って

光太とディーパの会話で、光太がシャンプーとコンディショナーを間違えたことから、UD製品のことを知る会話文が載っている。次の単元は、車いす体験についての英文があり、UDに関する授業を8時間かけて学習していった。

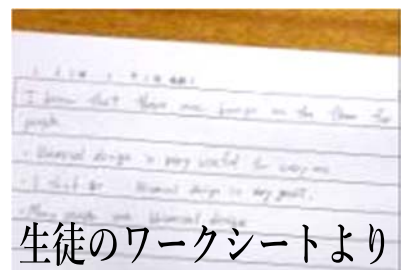
英語で、生徒に知っているUD製品などが何かあるかと問いかけたところ、bottle（容器）、scissors（はさみ）、stapler（ホチキス）などたくさんの製品を知っていた。



UD製品（教科書より）



黒板への板書



生徒のワークシートより

生徒の英文から

- I know that there shampoo bottle.
- Universal dssign is great.
- Universal design is easily and safely.
- Universal design is very useful.

b 南アフリカのUDについて

ALTの故郷である南アフリカのユニバーサルデザインについて、生徒に対して英語で説明をしてもらった。

誰にでも優しい街づくりに、生徒たちは驚いていた。



歩く人用、ジョギングする人用の線のある道



坂道に、座って登る動く椅子がある



車いすごと乗ることのできるブランコ



ものを持っていても開けられるドアノブ



いろんなところにスロープが設置されている

c 生徒の感想

- いろいろなものに、ユニバーサルデザインが使われていることを知ることができて良かった。
- 南アフリカは、人に優しいものが多くて、すごいと思った。
- 日本でも、南アフリカのようなユニバーサルデザインがもっと広まってほしいと思った。

(2) 職場体験

中学2年生（8年生）が夏休みを利用して、自分の希望する事業所で3日～4日の職場体験を行った。目的として、望ましい職業観を育成することと及び、働く大人と接することで豊かな人間関係を築く力を養い、他者について思いやる態度を育成することである。

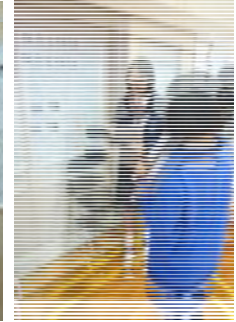
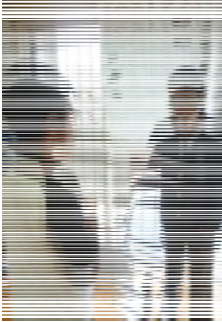
貴重な体験をした生徒たちは、一人一人が広用紙に職場で学んだことをまとめて、文化祭で展示したり、6年生との異学年交流でポスターセッションをしたりして、体験内容を発表した。



< 職場体験の様子 >



< 文化発表会での展示 >



< 8年生（中学2年生）と6年生の異学年交流（総合的な学習の時間） >

職場体験の感想

- ・ 障害を持っていても僕たちと一緒に普通の生活をされていて、一生懸命に仕事をされています。障害者への差別など、絶対にしてはいけないと思いました。
- ・ 障害者センターの方々は優しかったです。慣れない仕事で体が疲れて、休憩中に眠ってしまうこともありました。自分が望む将来を手にするためにしっかりと努力をします。
- ・ この仕事を通して、親がどれだけ仕事を頑張って生活を支えているのかがわかり、親に感謝しながら生活をしていきたいです。

8 取組の成果と課題

（1）成果

- 英語は、教科書の授業でしっかりUDについて学習した上で、ALTに南アフリカのUD事情を写真と共に紹介してもらったことで、生徒は改めてUDの大切さがわかり、普及することの必要性を認識した。
- 職場体験で、生徒は働くことを体験して、「貴重な体験だった」「仕事の大変さがわかった」「親のありがたさがわかった」「社会人としてのマナーを学べた」「自分の成長を感じた」など感想をもつことができた。小中一貫校の特色を生かした6年生へのポスターセッションでは、生徒の働くことへの意識をさらに高めた。小学生にわかりやすく説明することで、思いやりの心・優しい心を持つことができた。

（2）課題

- UDの実態は、他国と比べても劣っている部分があることがわかったが、そこからどう実践させていくか課題となっている。
- すべての学年でUD教育を行っているが、今後はさらにUD教育を充実させていきたい。